

三ノ六、教訓抄

出典 狛則近著、続群書類従巻五二九 日本思想体系

解説 教訓抄は天福元年（一二三三年）に興福寺に属する雅楽家で笛と左舞を専業とした狛近真により著された雅楽の口伝。我が国最古の総合的楽書である。万秋楽は舞楽の曲名で、六人で舞われる。

この教訓抄の中に笠置寺法華八講の舞楽に万秋楽が舞われることを記す。建久四年（一一九三年）には法華八講舞装束の修復勧進がなされている（笠置寺二季八講料舞装束勧進状）

原文 教訓抄卷二、万秋楽の項

笠置寺に関連する部分を赤字で表示した。

万秋楽 有^レ甲。近代不^レ用^レ「之」。准^二大曲^一。新楽。

序一帖。拍子二十六。破「六帖」。拍子各十八。

此ノ曲ハ仏世界曲也。序破各別ノ曲ニ侍トカヤ。ソノ様マチマチニテ侍。先自^二百済国^一波羅門僧正所^ニ伝来^ル也。コ、ニ左大臣源信。ウタカヒヲナシテフシ給ヘル夜ノ夢^ニ、天ニ音アリテ云ク「汝^チウタカフ事ナカレ。此序ハ五妙ノ音楽也。ユメサメテ、弥^{イヨ}掌^{イヨ}合^テ貴^ミ給ケリト申伝タリ。

或記曰。昔肥前国^ニ肥活崎ト云所ハ。日本ノ西南ノ月浦ノ東北ナリ。異ナル樹奇^{タカ}岳^カアリ。其所ニ神マシマス。西ハ海ノ渚ナリ。其所ノ古者物語云。自^レ昔。此所^ハ觀音地藏ノ来リ給^フ砌ナリ。于^レ時、睿^{エイ}効^{カウ}勝行ト云二人僧。聞^二此事^ヲ。塩^{タチ}断^{コク}穀^{タチ}断。火ノ煙ヲワスレテ、苦行シテ、二大菩薩ヲオカミタテマツル事ヲ、祈念シ申ニ、一七日ムナシクスキヌ。ナヲ心ヲヒトツニシテ。ナヲナヲ申ケレハ。第八日ト云晨朝ニイタリテ、小舟^{コフネ}ニノリタル人、前^ヘノ海ヲワタル。音楽ヲ調タリ。其ノ音^コ今^ヘ金商万秋楽之曲ナリ。又文ヲ誦ヲ聞ハ、其詞ニ云。

毎晨朝入諸定 入諸地獄令離苦

無仏世界度衆生 今世後世能引導

此ノ四句ノ文也。二人僧ナミタヲナカシテ、合^レ掌^テ礼^ス。ハルカニ西ヲサシテ、音楽雲ノ上ニ聞^キト、申伝テ侍レハ、此曲極楽浄土、天上世界ノ楽ト云事、更ニウタカフヘカラス。破ハ日藏上人渡唐ノ時、唱歌ニテワタシ給ヘリト申処ニ、**実忠和尚。都卒ノ内院へ参詣之時、菩薩聖衆ノ曲ヲ聞給テ、ウツシ給ヘリト申伝タリ。**
此和尚ハ、常ニ兜卒ヘカヨヒ給ケリ。而波羅門。僧正ト此和尚ハ、師弟ナリ。序破、有其謂^一。

序一帖、有^二三半帖^一。初半帖、拍子十。中半帖、拍子八。後半帖、拍子八。又説拍子十。舞家^{フケ}ニ習所^{トコロ}ハ、初半帖後半帖、合十八拍子、常ニハ舞ナリ。中半帖ヲハ舞ヲ秘ス。後半帖ヲハ樂ヲ秘也。コノテイニハ人シラス。ヨクヨクカクスヘシ。

太鼓ニ有三打様^一。第一、常説。第二、夕説。第三、廿八拍子説。

承元元年、最勝四天王院御供養^ニ、此曲ノアリシニ、則房宿禰予ニ当曲ヲ申合ラレシ内ニ、清光将曹六人ノ舞人ノ内ナリ。仍テ人数ニ立^ト思^フミ、中半帖ノ秘説ヲハト、メテ、後半帖ヲ片答^{カッ}ヲ舞ハムト思ヨシ候テ、其様ヲモチキラレタリキ

(中略)

知足院禪定殿下仰云、皇帝、団乱旋ハ、以^ニ小部氏笛^一為^レ本トヘシ。ケタカク仕ルユヘニ。蘇合、万秋楽ハ、以^ニ大神氏笛^一為^レ本。ヤサシク仕ルユヘナリ。小部^{コヘ}ノ「万秋楽」ハ、ソノ吹様ト、万秋楽ニアラサレハキ、タクモナシ。其ノ上ヲクマテハシラヌ曲ナリ。

又被^レ仰云。当曲ハ実ノ仏世界ノ曲ナリ。然者、舞人モ樂人モ、心ヲスマシテ、天上世界ノ曲ヲ、ヲモヒヤリテ舞ヘシ。アラアラシキハ、心エヌコトナリ。

入道右府説^ニ曰、於^ニ此曲^一者、弥勒仏^ノ出世シ給^ハン時、導師^ノ登^ルニテアルヘシ。タシカニソノイハレヲ、見出タリト云々。

笠置寺^ニ恒例^ノ八講^ニ有^ニ舞楽^一。故辻判官則近参詣^ノ時ハ、カナラス万秋楽ヲマハレケルハ、カヤウノコトヲシムセラレタリケルニヤ。閉眼ノ時モ臨終正念ニシテ、念仏数百返唱給ヘリ。タノモシクメテタクオホエ侍ル。

伯光季ノ申サレケルハ。此舞ノ序破トモニ、終居^ヲハ、付属ノ袈裟ヲ給ハルヨシト申伝タリ。今世ニハ序ニハ不^レ居。

権大納言藤原隆房ノ、最勝四天王供養日、此居所ヲ見給テ、付属袈裟給ル手ヲ御覽候ヘトテ、ナミタヲナカサレテ侍ケルモ、コトハリトヲホエテメテタクコソ候ヘ。

(中略)

堀河左大臣、臨終ノ時、慈尊来迎楽耳^ニ聞テ、都卒^ニ往生シ給ヘリ。実忠和尚ハ、唱歌万秋楽、室^ニ聞ヘテ、聖衆来迎ヲ得給ヘリ。争カ此曲ヲシレラン(シラレシイ?)輩、上生内院ノ臨ウタカヒ侍ヘキヤ。予臨終ノ時、必可^レ奏^ニ此曲^一。念仏ノ中ニモ自^ラ之^ノ声歌、欲^ク遂^ニ往生之願^一矣。

万秋楽異名

大和万秋楽	金商万秋楽	慈尊万秋楽
慈尊来迎楽	曼荼万秋楽	絃歌万秋楽
元老万秋楽	唱哥万秋楽	神仙万秋楽
仙哥万秋楽	見仏聞法楽	慈尊不徳楽
菩提樹下楽	慈尊楽	出世成道楽

已上、十五名或書注^レ之、不審無^レ極、可^レ尋^レ之

知足院ノ禪定殿下ノ御説云、龍花^ニ三会ノ曲、出世成道ノ説、謂^ニ之^ノ弥勒仏説^一也。序三半帖、初会宛、破吹一・二・三帖、中会宛、急吹四・五・六帖、后会宛、如^レ此ワカチテ、内院ニハ奏ナルヘシ。又九品ノ浄土ニ、ワカチタラムモ、目出カリナヌト被^レ仰ケル。コレニツキ

テ、私ノ説ヲ一愚案^{ツカマツリ} 仕侍ナリ。

(後略)

天福元年癸巳六月日以^三自筆^一書写畢 在判
正六位上行左近衛将監伯宿禰近真撰